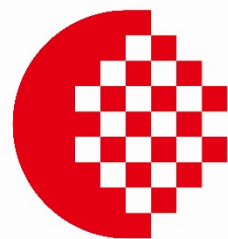

文化庁における文化プログラム 推進に向けた主な取組について

平成30年12月



文化庁

趣旨

文化芸術基本法や政府の重要方針等を踏まえ、全国各地において、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等における施策との有機的な連携により文化プログラムを推進する必要がある。このため、文化庁予算のうち、以下の主要施策を中核に、「日本博」をはじめとする文化プログラムを推進し、社会的・経済的価値を育み、2020年以降へのレガシー創出につなげる。

主要施策

1. 「日本博」を契機とした文化資源による観光インバウンドの拡充 **2019年度予定額 3,466百万円**

文化庁を中心とした関係府省庁や地方自治体、文化施設、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクトである「日本博」の開催を契機として、各地域が誇る様々な文化観光資源を一年間を通じて体系的に創成・展開するとともに、国内外への戦略的広報を推進し、文化による「国家ブランディング」の強化、「観光インバウンド」の飛躍的・持続的拡充を図る。

2. 国際文化芸術発信拠点形成事業 **2019年度予定額 958百万円**

文化資源により社会的・経済的価値を創出し、訪日外国人（インバウンド）の増加や活力ある豊かな地域社会の形成等に資するため、芸術祭などを中核とし、国際的な発信力を強化した大規模かつ持続的な文化芸術発信拠点形成を支援する。

3. 文化芸術創造拠点形成事業 **2019年度予定額 1,051百万円**

地方自治体が主体となり、地域住民や地域の芸・産学官とともに実施する、地域の文化芸術資源を活用した取組や地方公共団体等による文化事業の企画・実施体制を構築・強化する取組を支援する。

4. 戦略的芸術文化創造推進事業 **2019年度予定額 606百万円**

世界における日本の芸術文化への関心と評価を高めるため、各分野の総力を結集して、グローバルなネットワークを構築・強化することにより、新たな芸術文化を創造・発信する。

5. 障害者による文化芸術活動推進事業 **2019年度予定額 300百万円**

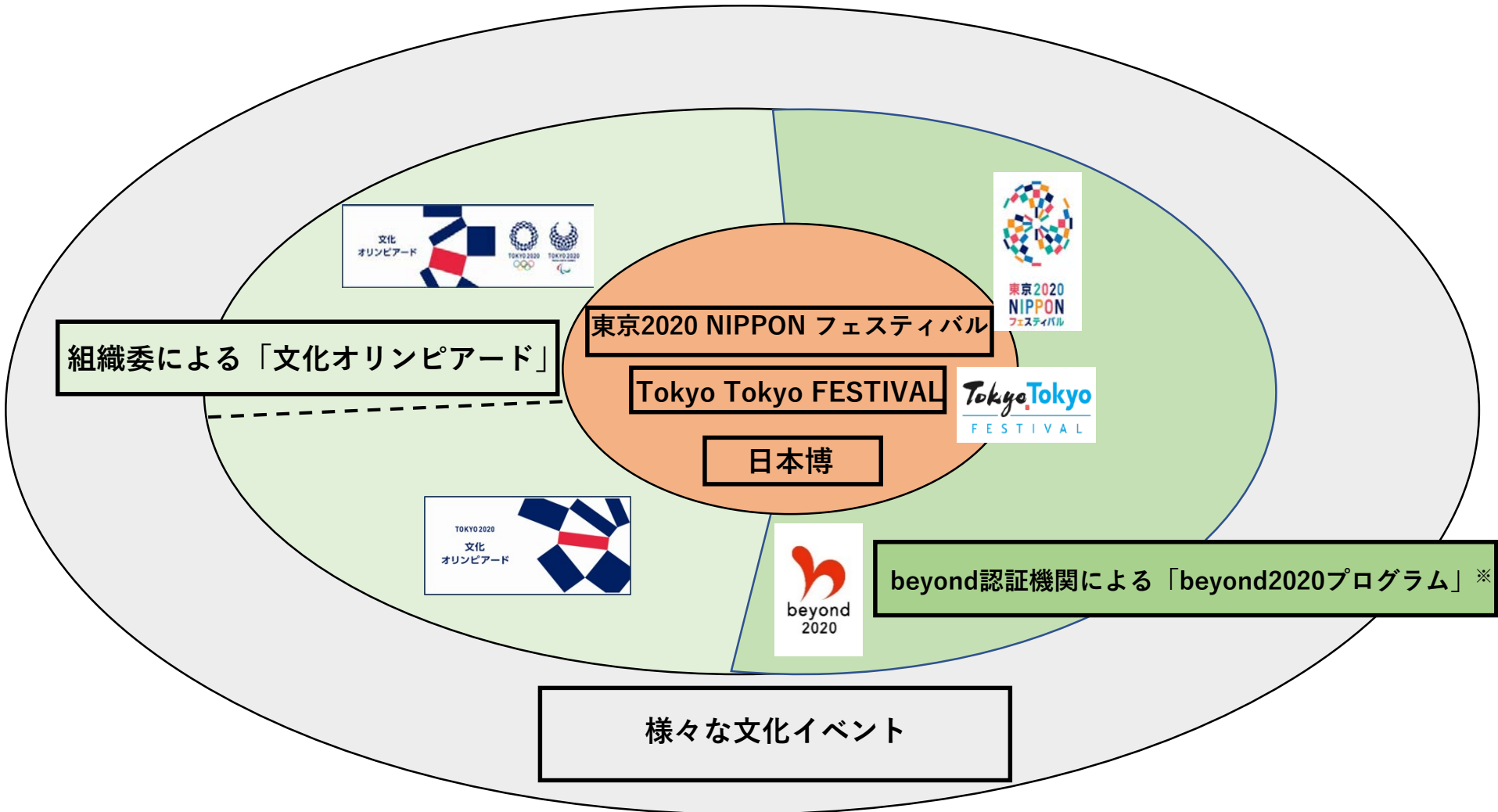
文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図り、住民が心豊かに暮らすことのできる住みよい地域共生社会の実現を図る。

6. 博物館を中核とした文化クラスターの形成 **2019年度予定額 1,099百万円**

博物館を中核とした文化クラスターを形成し、地域の歴史、芸術、自然科学等や文化施設をはじめとする様々な資源を博物館が中心となって新たな創造的活動や事業に結び付け、地域の主体的・協働的な活動の付加価値を生み出す「文化政策」と「街づくり政策」を合わせて事業等を展開するとともに、I COM京都大会を契機とした創造活動の活性化を図る。

「文化プログラム」の全体像

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議



※ オリパラ事務局、文化庁、外務省、観光庁等の関係府省庁、政府関係機関、関係自治体等が認証するプログラム。

1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏)において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 2020年の「日本博」については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本の全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。

2. 関連スケジュール

2015年: 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年: 「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

2018年: 「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年: 「ジャポニズム2019(仮称)」(於:米国等)を開催

2020年: 「日本博」(於:日本)を開催

(※ 同年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催)



「日本の美」総合プロジェクト懇談会(第6回)ジャポニスム2018総合推進会議(第3回)

○日時：平成30年6月22日(金) 18:10~18:50

○場所：官邸2階小ホール

○有識者：津川座長(総括主査)、内永委員、幸田委員、小林委員、林委員、森口委員

○政府等：安倍内閣総理大臣(議長)、林文部科学大臣、野上内閣官房副長官(議長補佐)、岡本外務大臣政務官、兼原内閣官房副長官補、宮田文化庁長官、安藤国際交流基金理事長(主査)

【津川座長(総括主査)】

○2020年の日本博の企画について推薦したい。2020年はテーマを「日本人と自然」として展開したいと思っている。なぜならば、日本の美意識には、縄文時代から現代まで連綿と続く一万年の自然観が色濃く反映されているからである。また、自然は全て左右非対称につくられているように、我が国の文化は、また、同じものが2つとしてない思想を大切にしてきた。

○それはまた、異質なものを排除しない日本文化独特の多様性の尊重ということにほかならない。この文化的価値観は、縄文以来一万年にわたり日本人が独自に育ててきたものであると同時に、宗教や民族を超えて現代の世界への普遍的なアピールとする重要なメッセージともなる。これを一貫したテーマとして造形美術から舞台芸術まで様々な領域にわたって表現する日本博を開催するのはいかがか。

○今回の日本博開催によって、日本の美の最も優れた部分を日本人に改めて再確認してもらうとともに、オリンピック開催とも重なり、海外から集まる観光客へも新たな認識をしていただくことができるに違いない。また、素人考えであるが、出展作品を決める識者グループ、出展場所と時期を決める識者、地方の首長グループ、少なくとも2つの分科会をつくって機能させなければならない。

【安倍内閣総理大臣】

・・・そして、2020年、本日、津川座長から、これらの取組の集大成として、世界中の人々が日本に来て、全国各地で「日本の美」を体感する企画、「日本博」開催の御提案があった。文部科学省・文化庁が中心となり、関係府省と連携し、万全、万端の態勢で進めるようお願いしたい。先ほど、今回の「ジャポニスム2018」で文学についての視点が欠けているのではないかと林委員から御指摘があったので、2020年においては、そうした指摘がなされることのないように、しっかりと取り組んでいきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会は、世界中の関心が日本に集まる。この絶好の機会に、日本の魅力を最大限に発信し、日本を訪れる数多くの方々にこれを実感していただけるように取り組んでまいりたい。

委員の皆様におかれては、引き続き、御指導をいただきますようお願い申し上げます。また、関係企業・団体におかれても、今後とも御協力をよろしくお願いしたい。

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト

- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立

〔共通コンセプト〕

縄文から現代

日本人と自然

美術・文化財

舞台芸術

メディア芸術

生活文化・文芸・音楽

食文化・自然

デザイン・ファッション

共生社会・多文化共生

被災地復興

〔主な分野〕